

令和3年度 学校経営計画・学校評価シート

高知江の口特別支援学校 国立高知病院分校

<p>【高知県の教育の基本理念】</p> <p>(1) 学ぶ意欲にあふれ、心豊かでたくましく夢に向かって羽ばたき子どもたち (2) 郷土への愛着と誇りを持ち、高い志を掲げ、日本や高知の未来を切り拓く人材</p>	<p>【取組の方向性】</p> <p>《6つの基本方針》 ① チーム学校の推進 ② 厳しい環境にある子どもへの支援や子どもの多様性にじた教育の充実 ③ デジタル社会に向けた教育の推進 ④ 地域との連携・協働 ⑤ 就学前教育の充実 ⑥ 学び続ける環境づくりと安全・安心な教育基盤の確保 《8つの基本方針に關する横断的な取組》 ① 学校における働き方改革の推進</p>	<p>学校像</p>	<p>児童生徒の病状の程度、能力、適性、進路に応じた教育を行い、学校、医療・福祉、保護者、地域との連携のもとに、学ぶ楽しさや生きる喜びを育て、自己肯定感をもって社会参加し、自立できる人間に育てる。</p>	<p>目指すべき姿</p>	<p>① 学校教育目標、教育課程、日々の授業のつながりを意識したカリキュラムマネジメントサイクルの確立による児童生徒一人一人の実態に応じた教育課程の編成 ② 卒業後の自立と社会参加を見据えた教育の充実と豊かな心の育成 ③ 教員の専門性の向上と指導力の育成 ④ 児童生徒の命と人権を守る安心安全な学校づくりの推進 ⑤ 特別支援教育のセンターとしての支援機能や情報発信、保護者・関係機関等との連携による開かれた学校づくりの推進 ⑥ 学校教育目標の達成をめざし、やりがい、働きがいのある学校組織の運営と働き方改革の促進</p>
---	--	------------	--	---------------	--

【重点取組項目】 (評価 A:目標を十分に達成 B:ほぼ目標を達成 C:やや不十分 D:改善を要する)

項目	取組ねらい【P】	現状と目標【評価指標】	具体的な取組内容【D】	中間評価【C】	中間評価後の取組内容【D】	年度末評価【C】	学校関係者評価	見直しのポイント【A】
<p>専門性の向上</p> <p>教育課程の改善</p>	<p>主目的、対話的で深い学びの視点での授業改善と学習評価を教育課程の改善とつなげ、一人一人に応じた教育課程を編成する。 【3年計画の2年目】</p> <p>① 個別の指導計画及び学習評価の充実(実態把握、3つの柱での目標設定、3観点での学習評価)</p> <p>② 個別の指導計画を踏まえた各教科の年間指導計画や単元計画の作成と、系統的な指導、支援のためのツール(目標内容詳細表)の作成</p> <p>③ 授業づくりのPDCAサイクルを徹底し、主対深の視点での授業改善を進める。</p>	<p>【現状・課題】</p> <p>①②③新様式の活用及び授業研究により、3つの資質能力を念頭において目標設定、3観点での学習評価を行うことが意識され始めた。知的1段階の目標・内容を目指す重度の児童生徒の3つの柱での目標設定にはまだ課題がある。また、教科と自立活動とのさび分けが不十分な場合がある。 ② 単元ごとの観点別学習評価の理解を深めるため単元計画案を作成し、教育課程の改善につなげる。 ③ 児童生徒の実態と学習指導要領の目標や内容とのつながりを考え、具体的な指導内容を充実させていく。「目標内容詳細表」について、土佐希望の家分校と合同で作成中である。国、算(数)を土台として、他教科にも広げていく。 ④ 教科に加えて他教科でも実施(研究) ⑤ 病棟生の実態と学習指導要領の目標や内容とのつながりを考え、具体的な指導内容を充実させていく。作成のヒントとして活用する。 ⑥ 病棟生の実態と学習指導要領の目標や内容とのつながりを考え、具体的な指導内容を充実させていく。作成のヒントとして活用する。</p> <p>【目標】</p> <p>① ③単元ごとの観点別学習評価の理解を深めるため、全教員が単元計画案を作成し、それを基に公開授業を実施する。 ② 系統的な指導計画を作成するため、引き続き「目標内容詳細表」を作成する。国、算(数)を土台として他教科にも広げていく。 ③ 病棟生の実態と学習指導要領の目標や内容とのつながりを考え、具体的な指導内容を充実させていく。作成のヒントとして活用する。 ④ 病弱教育については江の口本校分校と、肢体不自由教育については若草本・分校と連携しながら教育課程実施上の課題を共有し、改善のための検討を行う。 ⑤ 資質能力の育成には主対深の視点が必要であることを再確認して授業づくり・授業改善を進める。</p>	<p>①②③年間通して全校またはクラス別研究日の設定、計画的な実施(研究) ④ 個別の指導計画の目標設定から学習評価までのPDCAサイクルを推進(教務・研究) ・資質・能力の3つの柱による目標設定及び観点別評価の推進(学習指導要領を踏まえた説明会、単元計画案の作成の促進等) ・校務支援システムの活用(教務・情報) ⑤ 次年度の教育課程の改善・充実につなげるための教育課程に関するアンケートの実施及び検討(主事会・教務) ⑥ キャリア発達段階の見直し及び各教科等との関連検討(相談支援)</p> <p>①②③教科指導の充実のための授業研究(国語、算数・数学に加えて他教科でも実施(研究)) ・単元計画案の作成、公開授業及び研究協議を実施(研究) ・実態把握や授業づくりのための研修の実施(相談支援・研究) ・実践事例集の作成(研究) ・学習指導要領を踏まえた「目標内容詳細表」の作成を進める。(教務・研究)</p>	<p>①について</p> <p>・個別の指導計画は、年度当初作成にあたっての説明等研修を行い、計画に基づいて目標設定を行った。「国語」「算数・数学」は昨年度作成した目標内容詳細表を参考に設定している。 ・学習評価は、通学生については指導計画に基づく授業づくりや授業改善に取り組みしており、3観点での学習評価が行っているが、病棟生については、授業が実施できておらず、目標に対する評価はできていない。そのことから、現在行っているリポート学習についてどのように評価し、学習の記録としてまとめていけるか、また、通知表をどのようにしていくのかなど課題が山積しており今後検討が必要である。なお、病棟生の通知表については、年内には様式等を作成し、年度末には保護者に渡せるよう検討している。 ・校務支援システムについては、年度当初仕様変更によるトラブル等があったが、基礎情報の入力は完了し、出席簿の管理は本システムを活用している。 ・教育課程の改善充実について、主事会、教務部会、学部会等で検討中。様々な視点から改善を図っている。 ②について</p> <p>・単元計画については、他校の様式や中四肢研、教育課程研での講義・資料等を参考に現在検討中。2学期中に完成。今年度中には試行。来年度から実施する。 ・目標内容詳細表について、昨年度作成した教科に加え、主要教科の詳細表を土佐希望の家分校と協力して作成中。夏季休業中に1回、今後作成委員会を行う。(年間5回を予定)</p> <p>③について</p> <p>・全教員が2サイクルで公開授業を行い授業改善を行う予定としているが、現状から通学生のクラスのみ実施となっている。通学生の公開授業については夏季休業中に校内研として研究協議を行った。授業改善シートをもとに主対深の視点での授業改善について全教員で協議を行った。</p>	<p>①について</p> <p>・個別の指導計画における目標設定から学習評価について、自宅通学生は計画どおり個別の指導計画に合わせた評価を行うことができた。病棟生は2学期後半に病棟への授業が再開となり、約1か月間ではあったがその間に行った学習活動について評価を行った。但し、病棟内の学習については学習時間の十分な時間確保ができない状況もあり、限られた範囲での評価となった。 ・教育課程の改善について、学校全体において十分な学習活動が行えていないということもあり、次年度も継続して検討していくことを運営委員会等で確認した。 ②について</p> <p>単元計画について、様式は完成。次年度から作成していく。 ・昨年度から取り組んできた目標内容詳細表について、今年度は、本校で取り扱うすべての教科について作成することができた。次年度には本詳細表を用いて目標設定を行い、本詳細表においてもより質の高いものを目指し、改良していく。 ③について</p> <p>・通学生については2サイクルの授業改善の視点での公開授業を行うことができた。病棟生については、授業実施できた期間が1か月と短期間であり、病棟内の学習においては感染対策からさまざまな制約もあり、公開授業を行うことはできなかった。</p>	<p>【学校評価アンケートより】</p> <p>・「教科指導により児童生徒の力を育てることができているか」</p> <p>・そう思う、ややそう思う 保護者91.6% 関係者75.0%</p> <p>・わからない 保護者8.3% 関係者25.0%</p> <p>「学習のねらいや評価について十分な説明ができていますか」</p> <p>・そう思う、ややそう思う 保護者91.6% 関係者83.3%</p> <p>・わからない 保護者8.3% 関係者16.7%</p> <p>○いつもの場面でも丁寧に対応していただいている。 ○約2年間に及ぶ新型コロナウイルスによる教育現場での教員の制約がある中で色々と工夫されて取り組まれていることが大変評価できます。</p>	<p>①について</p> <p>・個別の指導計画について、現状から鑑みるに次年度も引き続きリモートでの学習が続く場合は、授業としての取扱いも検討していく必要がある。その際には学習評価についても必要となる。 ・教育課程の改善について今後も検討していく必要があるが、授業実践ができていない状態での改善策については、今後も検討が必要である。</p> <p>②について</p> <p>・目標内容詳細表については、積極的に作成し、定着を図る。 ・目標内容詳細表を活用し、目標設定を行うとともにその際の様々な意見を集約しながら改善を行う。 ・次年度も感染対策を行いながら学習活動を行うことが予想されるが、できる限り様々な活動が実施できるように検討する。</p>	
<p>キャリア教育の充実</p> <p>① 自立活動の指導の充実</p>	<p>教科学習を後ろ支えする自立活動の指導内容や指導の充実【2年計画の2年目】</p> <p>① 一人一人の児童生徒の「指導内容設定シート」の作成または見直し</p> <p>② 自立活動の指導と教科の指導の関連を理解し、適切な指導場面を設定する。</p>	<p>【現状・課題】</p> <p>① 2校内研修(自主研修含む)を通して、自立活動に関する教員の基礎的な理解が深まった。 ① 全児童生徒の自立活動の指導内容設定シートを作成し、自立活動の指導目標、内容、場面を明らかにし、実態に即した指導支援の充実につなげている。 ② 公開授業の指導略案に教科と自立活動との関連を記載するよう検討中である。他分掌と連携し、記載方法を分かりやすくする必要がある。教科と自立活動の関連性についてさらに理解を深める必要がある。</p> <p>【目標】</p> <p>① ②自立活動に関する基礎的な理解と教科指導との関連について理解を深める。 ① 全児童生徒の自立活動の指導内容設定シートを1学期から準備を始め、8月に評価、見直しをする。 ② 関係部署が連携し、自立活動と教科の指導内容について必要な整理を行う。 ※目標内容詳細表の作成を進めることで、教科で扱う内容と自立活動の配慮事項とのさび分けを明確にしている。</p>	<p>① 自立活動の基本的な捉え、指導内容設定シートの作成に関する研修会の実施(研究) ① 指導内容設定シートを活用し、全児童生徒の自立活動の目標等を設定、個別の指導計画に反映する。(研究) ・指導内容設定シートの作成や見直しのPDCAサイクルを個別の指導計画の作成・活用とリンクさせる。 ② 教科等の学習指導案の指導観や単元計画案、略案に自立活動の指導目標や内容との関連を記載する。</p>	<p>①について</p> <p>・指導内容設定シートについて年度当初にシート作成の理由や具体的な手順、複数人で検討する意義について研修を行った。その後、各クラスで作成。研究部でチェックをして、必要に応じて再度各クラスでの検討を依頼するケースもあった。また、夏季休業中には、各クラスで1学期の取組について評価・見直し等振り返りを行い、個別の指導計画に反映させている。 ②について</p> <p>・研究部において指導略案の様式を改善し、自立活動の目標を書き込むことで教科学習との関連が意識できるよう取り組んでいる。 ・公開授業後の校内研修では、自立活動との関連性にも触れ、自立活動の目標と教科の目標の整理を行った。</p>	<p>①について</p> <p>・指導内容設定シートについては、中間評価以降、通学生は適宜評価見直しを行った。病棟生については、授業再開後の対面で授業を行う中で、4月当初の実態とは異なることもあり、大幅に目標の変更を行った事例の報告もあった。 ②について</p> <p>・中間報告以降は自立活動と教科の関連性について盛り込んだ指導略案を活用することで、少しずつではあるが教科と自立活動のさび分けやそれぞれのねらいについて整理することができた。</p>	<p>【学校評価アンケートより】</p> <p>「自立活動についてわかりやすく説明ができていたか」</p> <p>・そう思う、ややそう思う 保護者91.7% 関係者75.0%</p> <p>・わからない 保護者8.3% 関係者19.4%</p> <p>○1の項目同様 ○学習の中で今まで見られなかった感情、表情が見られよかったです。</p>	<p>①②について</p> <p>・自立活動の指導内容について、指導内容設定シートで整理することで、また、指導略案に自立活動の取扱い項目を明記することで、教科と自立活動の目標の違いが明確となり、教科との関連性についても整理できている。本取組は今年度で2年計画の2年目を終え、経営計画の柱からは外れるが、引き続き定着していくよう取り組んでいく。</p>	
<p>学校設定項目</p> <p>② ICT 活用の推進</p>	<p>GIGAスクール構想による一人一台PCの配置に伴い、全ての教員がgoogle協働学習ツールG suite for Educationを利用できるようにする。</p> <p>① 効果的、効率的で計画的な業務により、見直しをもった仕事の仕方につながるなど教職員の働き方に関する意識改革を行う。</p> <p>② 本校・分校で共同・協働してできる業務を検討し、各校の教育活動の交流による質の向上を図るとともに、業務の効率化を図る。</p>	<p>【現状・課題】</p> <p>① ②基礎的なことや学習への有効活用の方法等、研修を行い、皆が使えるようになる必要がある。 ① 使い方や管理のルール(個人情報の管理を含む)について周知が必要。 ① トラブルへの対応や、1人1台パソコンのメンテナンスができるか心配。 ② ICTは手段であるが、目的とならぬようになっている必要がある。 ② R2年度は、病棟生に対する授業の日数が極端に少なく、9月より本格的に学校・病棟間でICTを使った学習の取組を行い、10月よりオンラインでの取組を行うことができた。 ② ICTを活用した取組を行うにあたってZoomやMovieなど、全教員が活用できるよう研修を行った。</p> <p>【目標】</p> <p>① 全ての教員がgoogle協働学習ツールG suite for Educationをインストールして活用できるようになる。 ② 対面授業が難しい場合でも学習対応できるよう今後も研修や校内体制、環境づくりを行っていく。 ③ 授業づくりや自立活動の指導の取組と関連させて、児童生徒の実態に応じたICT機器の活用を進める。</p>	<p>① 教員がgoogle協働学習ツールG suite for Educationが活用できるように研修会(講習会)を実施 ② 児童生徒が活用するための簡単な使い方をマニュアルや管理のルールを作成 ③ 可能なクラスにおいては、児童生徒の一人1台パソコンに、google協働学習ツールG suite for Educationが利用できるように設定し、授業や宿題等に活用を始める。 ※ICT支援員の活用を検討する。 ④ 蓄積しているデジタル教材の有効活用や校内の人材バンクの中で可能な自主研修を検討する。</p>	<p>①について</p> <p>・全教員でChromebookの活用に向けて研修を行う予定にしていたが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、実施できていない。2学期以降、高知県の感染の目安を参考にしながらできるだけ早い段階で研修日を設定する。 ・生使用のPCについてはChromebookを活用できるようにアプリをインストールしているが、実際のところ本校ではiPadを使った取組が主流のためChromebookの活用率は低い。今後どのような場面でのどのような活用方法があるのかを模索していく必要がある。 ②について</p> <p>・本校では隣接病院の重症病棟が新型コロナウイルス感染症の感染対策から面会禁止となっている。そのため昨年度からiPadをスタンドに固定したものを病棟スタッフに手渡し、それを児童生徒が視聴するという学習活動を行っている。内容的にはデジタル教材の視聴やzoomを使った双方向での取組を一人当たり週2回実施している。1学期途中からはKUBIを使用することでカメラの向きを変えるなど教員のICT技術も向上している。</p>	<p>①について</p> <p>・Chromebookの活用に向け、研修会を実施することができた。初歩的な内容ではあるが、活用するうえで自分たちのやりかたについて研修することができた。 ・居住校交流において、Chromebookのclassroom機能を使って相手校との交流を深めることができた。 ・病棟生はChromebookを使う機会も少なかったという要因もあり活用率は低くなってしまったが、感染症の拡大が一落着き、授業が再開できるようにになれば活用率も上がると予想される。 ②について</p> <p>・iPadを使用した病院との取組も2年目となり動画編集等を含めた技術面は非常に向上している。周辺機器も充実したことでより児童生徒の実態に合わせた取組ができるようになった。</p>	<p>【学校評価アンケートより】</p> <p>・「Chromebookについて次年度も研修機会を設け、さらに活用していく。」 ・そう思う、ややそう思う 保護者83.3% 関係者83.4%</p> <p>・わからない 保護者16.7% 関係者16.7%</p> <p>「児童生徒が楽しめる創意工夫ができていたか」</p> <p>・そう思う、ややそう思う 保護者91.6% 関係者86.1%</p> <p>・わからない 保護者8.3% 関係者13.9%</p>	<p>①について</p> <p>・Chromebookについて次年度も研修機会を設け、さらに活用していく。 ・そう思う、ややそう思う 保護者83.3% 関係者83.4%</p> <p>・わからない 保護者16.7% 関係者16.7%</p> <p>病棟のリポート学習については、今後も病棟と連携し合いながら、できる活動は積極的に実施していく。</p>	
<p>働き方改革</p>	<p>子どもに向き合う時間、自分自身を高める時間の確保と、一人一人の力が生かせる職場づくりを行う。</p> <p>① 効果的、効率的で計画的な業務により、見直しをもった仕事の仕方につながるなど教職員の働き方に関する意識改革を行う。</p> <p>② 本校・分校で共同・協働してできる業務を検討し、各校の教育活動の交流による質の向上を図るとともに、業務の効率化を図る。</p>	<p>【現状・課題】</p> <p>① 会議の会期や業務の分担、分掌部の新設等業務の整理を行い、できるだけ、業務の重複等、偏りがなく、1人1人配置を行った。 ② 2学期途中より自主学習会を実施。直近の課題であったZoomの取扱いや動画編集をはじめSCにも参加していただき教員間でのおしゃべり会、外部で受けた研修会等の伝達研修など自教職員個々の人材バンクを活用し、互いのスキルアップを図る取り組みとなった。 ③ Zoomを使うことで児童生徒の交流や会議等、学習の幅が広がったり移動を含めた会議の時間短縮につながったりするなど、さまざまな効果があった。 新型コロナウイルス感染症の感染対策において、基準がわかりにくい部分があった。 ④ 本校・分校で共同・協働し、4校カリネ委員会や芸術スポーツの振興等の教育活動を行った。</p> <p>【目標】</p> <p>① 効果的、効率的な業務のための組織体制や業務分担の見直し ② 部長、クラス長の役割を明確にし、分掌部や学級の経営力を高める。 ③ 人材育成・専門性の向上により、学び合う風土を作る。 ④ 働きやすさ・安心・安全な職場環境を実現する。 ⑤ 本校・分校や同隣障害種の学校と共同・協働した教育活動や事務的な処理を検討する。</p>	<p>① 年間反省のシートに中間の進捗状況を記入し、分掌業務や進捗状況の見える化を図る。(各分掌) ① 主事会(教務部長・各学部主任・管理職)の実施及び検討内容の明確化 ① 職員室や各教室の整理整頓と維持 ① 全体への周知のツールとしてグループウェアを有効活用する。(各教室、機器の予約等) ① 引き継ぎ、業務の精選を図る(業務内容の検討) ① NO残業デー(毎週木曜日)の実施 ② 毎朝のラジオ体操など教職員の福利厚生者の検討(総務)</p> <p>② 本校・分校や同隣障害種の学校と取組を共有し、合同でできることや協力してできるものについて検討し、できることから取り組む。</p>	<p>①について</p> <p>・各分掌、校内委員会の年間反省シートの中間の進捗状況を確認し、11月の運営委員会や次年度の学校運営機構等についての検討を行った。運営委員会では議題、報告事項とも周知の仕方についても職員会での全体周知だけではなく、運営委員会で開催を確認し、クラス会、学部会、職研、GWなど、周知の内容に合わせて振り分けを行っている。 ・今年度は主事会の位置付けを明確にし、毎月定期で主事会を実施している。今後次年度に向け、主事会の内容の精査も行う。 ・今年度空調及び照明の工事の関係もあり、校内を全体的に整理し、2学期開始時には清掃、整頓を行った。 ・GWは、掲示板での周知連絡、各教室や機器の予約、アンケートの実施などの活用をしている。 ・NO残業デーの日は職研で周知、17:00過ぎには再度周知を行い、基本17:30には全員退勤、施錠をしている。 ・福利厚生のラジオ体操は毎朝8:20から総務部の声掛けで実施。 ②について</p> <p>・文化芸術及びスポーツの交流を昨年度同様若草3校と行う予定。 ・江の口3校で管理職会を開くなど学校間で連携して業務に取り組んできた。各分掌においても、本校分校間で連絡を取り合いながら業務の確認を行っている。</p>	<p>①について</p> <p>・各会議での検討事項の内容ができるだけ重複しないように年度当初から確認を行ってきた。また、運営委員会では議題、報告事項とも周知の方法等を振り分けるところで職員会等の時間短縮へつながっている。 ・今年度から主事会を毎月定期開催することで、学部会と各クラスの検討事項さび分けや今までの会議で検討すべきか迷うような事案の取りこぼしも少なくなった。 ・No残業デーは各職員が意識し、年間を通して17:30過ぎには全員退勤、施錠をすることができた。また、その他の日においても18:30には退勤を促すことで、繁忙期以外は全員退勤できている。 ・今年度も福利厚生としてのラジオ体操を総務部声掛けのもと継続実施している。 ②について</p> <p>・文化芸術及びスポーツの交流を昨年度同様若草3校と行う予定。 ・文化芸術及びスポーツ交流として、若草3校と合同作品交流会及びポピュラー大会を行った。</p>	<p>【学校評価アンケートより(教職員)】</p> <p>「会議の精選ができていますか。子どもに向き合う時間(クラス会やケース会など)が増えているか」</p> <p>・そう思う、ややそう思う 教職員85.0%</p> <p>・あまり思わない 教職員15.0%</p> <p>○教師の自己満足にならないように日々意識して教材研究を続ける必要がある。 ○授業自体が少ないので子どもに向き合う時間が増えたとは言えない。 ○資料等に沿った周知の仕方について工夫をすることで会議の時間短縮につながるのではないかと。</p>	<p>①について</p> <p>・次年度も引き続き主事会や運営委員会での会議の精選を図る。 ・分掌業務の業務内容等についても精査する。 ・今年度は相談支援部と児童生徒部を統合し、現在の6分掌から5分掌とする。また、クラスの代表で構成した情報部の業務を次年度は研究部へ移行する。 ・NO残業デーは引き続き設定するが、曜日を会議の多い木曜日から水曜日とする。 ・福利厚生のラジオ体操は次年度も継続していく。 ②について</p> <p>・文化芸術及びスポーツ交流として次年度も若草3校と合同作品交流会及びポピュラー大会を行う。</p>	